

下顎運動と個々の歯牙の解剖学的形態との間には、機能的な相互関係が存在しこの関係こそが咀嚼器官再建にあたっての重要である。

Dieter Schulz氏のNAT(Die Naturgemase Aufwachstechnik)は、運動経路(オクルーザルコンパス)をカラー化(色分け)し、運動経路及び方向を視覚的に捉えることが可能にし、整理することができそのカラーごとにカラーワックスで分類することによって、日常臨床において自然に適ったワックスアップテクニック(NAT)を理論的に駆使することが可能になる。

このような知識や技術は、既存のセラミック修復やワックスアップはもちろん、今後ますます発展するであろうCAD/CAM技術においても応用し役立てることができるはずである。

今回、NAT(Die Naturgemase Aufwachstechnik)を理解するために、基本形態である大臼歯のワックスアップの実習をしたいと考える。